

高校生 二宮 涼 16歳

昔から大型ごみの不法投棄や何げないポイ捨てで、人間は景観を崩してきたといわれる。

しかし、私はごみ問題をどこことなく外の世界のことと認識していた。ごみを分別し、決められた所に捨てることを心がけてきたからである。

ところが、中国新聞に掲載された「海に聞く 瀬戸内再生」の記事を読み、人ごとでとらえていた考えを改めた。広島湾内のごみ問題の記事なのだが、取り上げられていたのは、

「見えないごみ」意識

マイクロプラスチックと呼ばれる目に見えない小さなごみである。

私は見えるものへの対処がまず大切だと考えていた。しかし、近代化の過程ですーっと捨てられてきたごみは、見えない砂のようになり、今別の問題として私たちの前に現れている。

見えるごみへの対処は、もちろん続けていかなければならない。そして同時に、私たちは、見えないごみにも目を向けることが重要だと考える。

(広島市安芸区)

ヤングスポット